

Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) 礼儀コールバック (CCB) トランク 検証

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決策](#)

概要

この資料は入力ゲートウェイで設定される CCB トランク 検証 パラメータを記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CVP
- CCB

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は CVP に基づいています 9.0(1)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

問題

CVP レポート サーバーは入力ゲートウェイで設定される `survivability.tcl` スクリプトで特定の入力ゲートウェイに起きた呼び出しのために CCB のために超過キャパシティを検証するとき規定される トランク値を使用しません。

CCB がコンタクトセンター 環境で設定されるとき、コールバックは顧客にコールが検証プロセスを渡す場合、提供されます。この検証プロセスでは、コールが検証される複数のパラメータが

あります。

はたらくコールバックのために正しい survivability.tcl スクリプトは入力ゲートウェイで動作したにちがいあり、仕様パラメータは survivability.tcl サービスの下で設定される必要があります。従ってたとえば、発信者が CUCM からの CVP に直接 IP 生成 発信者ならコールバックははたらくことができません。プローブは survivability.tcl に従って入力ゲートウェイに入力ゲートウェイがコールバックが可能であることを確認するために送返されます。

サバイバビリティの下でコールが検証を渡すことができるように次のパラメータを追加されなければなりません保守して下さい:

パラメーター CCB ID: この gateway> の <host 名前が IP; 位置: <location name>; トランク: コールバック trunks> の <number

各記号の意味は次のとおりです。

id: このゲートウェイのための固有の識別番号はデータベースにどのゲートウェイがオリジナルコールバックの要求を処理したか示すために記録され。

位置: ネーム任意 位置このゲートウェイの位置を規定します。

トランク: このゲートウェイのコールバックのために予約される DS0 の数。システムがコールバックのために許可されるリソースを制限することを可能にするように T1/E1 トランクの数を制限して下さい

CVP バージョン 10.5 の前に、CCB のために設定されたトランク サイズは特定の入力ゲートウェイのコールバックのためにキャパシティの検証で使用されませんでした。

解決策

入力ゲートウェイで設定される保留中、進行状況、一時的の現在の呼び出しと Survivability.tcl スクリプト サービスの下の既存の CCB トランク パラメータは今または接続される原因 ID と完了状態比較されます。

基本的にはプロセスは最初に EventTypeID の Callback_current 表からの呼び出しの数を判別します (21,22,23); 、特定のゲートウェイのために一時的な Inprogress 保留中。

2 番目に、Callback_current 同じ表から、接続される原因と完了する呼び出しの数判別して下さい: EventTypeID = 24 (完了する)、および CauseID = 27 (接続される)。

最後にプロセスはこれら二つの値を追加し、Survivability.tcl サービスの下で設定されるトランクの数によって比較します。

結果が設定されるトランクしきい値にある場合プロセスは失敗を送返します (1) 戻りは、他では ok (0) 戻りを送返します。

注: この問題は CDETS と関連しています: [CSCue59908](#) - CVP はゲートウェイ トランク サイズをコールバック キャパシティを検証するのに使用しません